

令和元年5月21日

名古屋教育医療記者会 各位

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班
代表 酒々井 眞澄 学生代表 中野聖也
電話 052(853)8991
名古屋市立大学事務局学生課
課長 三宅 正嗣 電話 052(872)8019
(名古屋市政記者クラブと同時発表)

学生の手で山岳診療を
ささえる！

「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班」今夏も1か月間活動！

教育講演会開催のご案内
『空から学ぶ山の天気』 6/7 (金)

『夏山登山のための運動生理学とトレーニング』 6/9 (日)



(キャプション) 2018年の診療所開所式



2018年7月雲上セミナーの様子

「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班」では、学生部員約 100 名と本学の教員、医療関係者や卒業生ら約 60 名が中心となって毎年夏に診療活動を行っています。診療所は、北アルプスの蝶ヶ岳山頂 (2,677 m) 付近にある「蝶ヶ岳ヒュッテ」(山小屋)内にあり、現在、学生が教員の助言を受けながら開所準備を進めています。22 年目となるボランティア医療活動という取り組みに対して、平成 28 年には長野県北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会から感謝状をいただきました。この活動は、高地医学、遠隔地医療および環境保全に関する研究と教育の場となっています。

今年度の活動に先駆け 2 つの「教育講演会」を下記のとおり開催します。登山やトレッキングに興味のある方、山の気象について学びたい方など、どなたもご参加いただけます。広く市民の皆さまにご案内させていただくと共に、取材をご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

記

【教育講演会 1】

- 1 日 時 令和元年 6 月 7 日 (金) 17:00~19:00 (受付 16:30~)
- 2 場 所 名古屋市立大学医学研究科研究棟 11 階講義室 B
- 3 対象者 登山に興味のある方、山の気象に興味のある方など
- 4 テーマ 「空から学ぶ山の天気~山に登ることは空に近づくこと~」
山岳気象を理解することにより、登山者のリスクを軽減することが可能です。「世界の果てまでイッテ Q」の登山隊などをサポートしている猪熊氏が解説します。
(株式会社ヤマテン代表取締役 山岳気象予報士 猪熊隆之氏)
- 5 参加費 無料 (事前申し込み不要。直接会場にお越しください。)
- 6 URL <http://chogatake.umin.jp/>

【教育講演会 2】

- 1 日 時 令和元年 6 月 9 日 (日) 14:00~15:00 (受付 13:30~)
- 2 場 所 名古屋市立大学桜山キャンパス本部棟 4 階ホール (大学病院のある場所です)
- 3 対象者 登山やトレッキングに興味のある方、高地の運動生理学に興味のある方など
- 4 内 容 「夏山登山のための運動生理学とトレーニング」
登山での運動とトレーニングの関係、安全登山に役立つ知識について、三浦雄一郎氏のエベレスト登山のトレーニングサポート経験もある山本教授が解説します。
(鹿屋体育大学教授 同スポーツトレーニング教育研究センター長 山本正嘉氏)
- 5 参加費 無料 (事前申し込み不要。直接会場にお越しください。)
- 6 URL <http://chogatake.umin.jp/>

教育演会 1

名古屋市立大学
蝶ヶ岳ボランティア診療班 公開講演会

どなたでもご参加可能。
事前連絡不要。
たくさんのご参加お待ちしております。

「空から学ぶ山の天気～山に登ることは空に近づくこと～」

2019年6月7日(金) 17:00～(受付16:30～)

場所:名古屋市立大学研究棟11階講義室B

講師:猪熊隆之先生 聴講料:無料



《プロフィール》

1970年生まれ。全国18山域59山の山頂の天気予報 <https://i.yamatenki.co.jp/> を運営する国内唯一の山岳気象専門会社ヤマテンの代表取締役。中央大学山岳部監督。国立登山研修所専門調査委員及び講師。茅野縄文ふるさと大使。カシオ「プロトレック」開発アドバイザー。チョムカンリ(チベット)、エベレスト西稜、剣岳北方稜線冬季全山縦走などの登攀歴がある。著書に山の天気のだまされるな(山と溪谷社)、山岳気象予報士で恩返し(三五館)、山岳気象大全(山と溪谷社)。共著に山の天気リスクマネジメント(山と溪谷社)、安全登山の基礎知識(スキージャーナル)、登山の科学(洋泉社)

《詳細》

自然現象や生物の行動の様子から天気の変化を予測する観天望気や空を見ることの楽しさなどをヤマテン代表取締役、山岳気象講演予報士である猪熊隆之氏に解説して頂きます。



◆主催:名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班
1998年(平成10年)より私たちは、
北アルプスの蝶ヶ岳山頂にて診療所を運営しています。
診療活動にご協力頂ける医療スタッフを募集しています。
講演会后、壮行会を予定していますので、ご参加される方は当日学生にお声をかけて頂くか下記までご連絡ください。



担当:名古屋市立大学 蝶ヶ岳ボランティア診療班
学生代表 医学部3年 中野聖也
(Email : saintcblossom@gmail.com)

教育演会 2

名古屋市立大学
蝶ヶ岳ボランティア診療班 公開講演会

どなたでもご参加可能。
事前連絡不要。
たくさんのご参加お待ちしております。

「夏山登山のための運動生理学とトレーニング」

2019年6月9日(日) 14:00～15:00(受付13:30～)

場所:名古屋市立大学本部棟4階ホール

講師: ^{やまもと まさよし}山本正嘉教授 聴講料: 無料

《ご略歴》

1957年生まれ。東京大学大学院修了(博士(教育学))。現在、鹿屋体育大学教授、同スポーツトレーニング教育研究センター長。スポーツ選手の競技力向上を図るための教育・研究に取り組むかたわらで、登山者の安全や能力向上のための研究を行ってこられた。プロスキーヤー・登山家である三浦雄一郎氏の70歳、75歳、80歳でのエベレスト登山時にはトレーニングサポートを担当。ご自身の登山歴はシヴリン北稜の初登攀、アコンカグア南壁のアルパインスタイル登攀、チョーオユーの無酸素登頂など。2001年に、登山の運動生理学とトレーニング学の研究に対して秩父宮記念山岳賞を受賞。2016年に『登山の運動生理学とトレーニング学』を上梓。

《詳細》

登山は、平地でのウォーキングとは違って、荷物を背負い、長時間、坂道を上り下りします。したがって、自分の体力にふさわしい山を選んで登れば、体力や健康に対してウォーキング以上の効果が得られます。逆に、体力不相応の山を選んでしまうと、健康を損ねたり、事故につながりかねません。実際に、転倒、病気、疲労などの事故が年々増加しています。

本講演では、登山が想像以上に大変な運動であること、ベテランと呼ばれる登山者の多くが体力不足で、実際に事故も多く起こしていること、普段のトレーニングが山で役立っていないことを、データでご紹介頂きます。

加えて、安全登山に役立つ知識として、山での歩き方、エネルギーや水分の補給、高山病への対策などのほか、日常での体力・運動能力のトレーニング法や、ご自身の体力の評価法についてもご講演頂きます。

◆主催:名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

1998年(平成10年)より私たちは、北アルプスの蝶ヶ岳山頂にて診療所を運営しています。診療活動にご協力頂ける医療スタッフを募集しています。

講演会后、壮行会を予定していますので、ご参加される方は当日学生にお声をかけて頂くか下記までご連絡ください。



担当:名古屋市立大学 蝶ヶ岳ボランティア診療班
学生代表 医学部3年 中野聖也
(Email : saintcblossom@gmail.com)

《今年の名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動》

- 1 教育講演会1** (6月7日(金) 午後5時、名古屋市立大学医学研究科研究棟11階講義室B)
天気予報士であり登山家でもある猪熊隆之氏(株式会社ヤマテン代表取締役)に毎年来学
いただいております今年も山岳気象に関する講演会を行います。
- 2 教育講演会2、壮行会** (6月9日(日) 午後2時から講演会、午後3時から壮行会、桜山キ
ャンパス本部棟4階ホール)
診療活動の決起会として壮行会を行います。当日の壮行会前に行われる講演会では鹿屋体
育大学の山本正嘉教授にご講演していただきます。
- 3 日本登山医学会** (6月22日(土)～23日(日)、つくば国際会議場、茨城県つくば市)
次の演題で研究成果を発表します。
「蝶ヶ岳での登山中の水分摂取量と急性高山病発症との関連～新LLSにもとづく解析」
酒々井眞澄^{1)・2)}、藤永拓実¹⁾、田中秀和¹⁾、佐々木貴久^{1)・3)}、松本晴年^{1)・4)}、坪井 謙<sup>1)・
2)</sup>、薊 隆文^{1)・5)}
1) 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班、2) 名古屋市立大学大学院医学研究科、3) 安
城更生病院、4) 名古屋市立大学医学部附属病院薬剤部、5) 名古屋市立大学看護学部
- 4 診療所の開所期間** (7月14日(日)～8月19日(月))
学生が交代で蝶ヶ岳ヒュッテに宿泊して医師の診療活動をサポートします。例えば、問診
や診察の補助、薬剤やガーゼなどの管理と補充を行います。学生は診療所内に24時間待機
し早朝や夜間でも患者さんを受け入れる体制を整えています。診療所の周知や体調不良者
の早期発見を目的として登山者に対して声かけ活動も行っています。

～雲上セミナー～

学生や医療スタッフが講師となりヒュッテ内でのセミナーを、開所期間中ほぼ毎日
食堂で午後7時から1時間、「高山病の予防」「外傷の対処法」「星の見方」などのテ
ーマで安全登山の啓発に努め、登山者との交流を図っています。セミナー後に血圧や
血液中の酸素飽和度測定を行います。

毎年40講座以上行っている雲上セミナーの様子を、2018年から「知の市場」のウエ
ブサイト (<http://chinoichiba.org/index.html>) で紹介し全国に周知しています。ま
た、雲上セミナーの実施予定や内容については診療班のホームページで7月中旬頃から
公開予定です。

5 勉強会(通年)

私たちは診療所で必須な知識と技能を身につけることを目指して勉強会を毎週行っていま
す。勉強会のテーマは「患者さんの話を聞く医療面接」「体温、血圧、脈拍の測定方法」
のような手技的なものから、「高山病の症状と予防法」「薬の使い方」などの専門的な内
容まで幅広く設定されています。これは学生により企画運営され熱心に取り組んでいま
す。

登山医学会抄録

蝶ヶ岳での登山中の水分摂取量と急性高山病発症との関連～新 LLS にもとづく解析

酒々井眞澄^{1),2)}、藤永拓実¹⁾、田中秀和¹⁾、佐々木貴久^{1),3)}、松本晴年^{1),4)}、坪井 謙^{1),2)}、薊 隆文^{1),5)}

1)名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班、2)名古屋市立大学大学院医学研究科、3)安城更生病院、4)名古屋市立大学医学部附属病院薬剤部、5)名古屋市立大学看護学部

当該診療所での症例のうち最多の疾患(全体の 40%)は急性高山病(AMS)である。高所での低酸素血症が AMS の原因とされるが、必ずしも全登山者が AMS を発症するわけではないこと、登山中に十分な水分摂取ができていない登山者が発症する場合があることを経験した。これらの背景から、AMS の患者数と患者ごとの水分摂取量をくわしく調べることで AMS を予防できる水分量を特定できると考えられた。2008～2016 年に名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所を受診した登山者 1,381 名を対象に、登山中の水分摂取量と AMS 発症との関連を解析した結果、水分摂取量が 1,100 mL より多いと AMS 発症率が有意に少ないことを私たちは明らかにした(登山医学, 37: 144-149, 2017)。さらに、2008～2017 年に当該診療所を受診した登山者 1,515 名を対象に、各人の水分摂取量を体重および登山時間での標準化し AMS 発症と水分摂取量(mL/kg/h)との関連を解析した結果、縦走登山者では水分摂取量が 1.86 mL/kg/h より多いと AMS 発症が有意に少ないことが分かった($P=0.00432$)。非縦走登山者では水分摂取量が 2.76 mL/kg/h より多いと AMS 発症が有意に少ないことが分かった($P=0.0206$) (第 38 回日本登山医学会学術集会, 東京都, 2018 年)。これらの研究の対象データから、AMS の発症には体重および登山時間で標準化した水分摂取量が関連している可能性がある。AMS の診断にはレイクルイーズスコア(Lake Louise Score: LLS)が一般的に用いられる。LLS は 2018 年に改訂され、「頭痛」、「胃腸症状」、「疲労・脱力」、「めまい・ふらつき」の 4 症状について、0～3 点のスコアをつけ、4 症状のうち頭痛を含み、合計点が 3 点以上を AMS と定義している。この場合、LLS は高地到着後、6 時間以降に評価することが推奨されている。これまでの私たちのデータ解析は旧 LLS にもとづき行われてきた。現在、より正確な検証をめざして、2008～2018 年に当該診療所を受診した登山者 1,649 名を対象に、新基準に沿ったデータの解析を進めている。今回はこの解析データを提示したい。